

公園の父 本多静六の生涯を学ぶ

あなたのイメージした公園(箱庭)を作ってみよう



案内人
郷土史家 玉手 洋一

※ 本多静六が初めて設計した日比谷公園

本多静六の生涯について学んだあとは、彼にならい、
公園を設計して箱庭を作ります。インテリアにいかがでしょう

開催日時：令和8年 10月 12日(月・祝)

午後1時 ～ 午後3時

開催場所：高澤記念館

埼玉県行田市長野3丁目5-41

※ 駐車場あります

行田市循環バス長野バス停徒歩7分



箱庭制作サンプル

募集人数：10名

参加費用：1,500円 箱庭制作材料、ケーキ、ドリンク付

お申込専用アドレス kyoudo.saitama@gmail.com

※ 参加を希望される方は、上記メールアドレスへお名前を記入し
お送り下さい。

右のQRコードを読み取り、「メール作成画面はこちら」をタップ
メールフォームにご記入下さると簡単です。



お申込用QRコード

■ 日本の公園の父 本多静六

慶応2年、武蔵野国 河原井村（旧 菖蒲町 現久喜市）に生まれた折原静六は、裕福な農家に生まれましたが、幼くして父を亡くしてから、一転、厳しい生活を送るようになりました。その後学業に励み、東京農学校（現 東京大学農学部）を主席で卒業しました。そんな時に養子縁組の話が持ち上がります。相手は、彰義隊頭取を務めた本多敏三郎の娘 銚子。そこで、名前を“本多静六”と変えることになります。結婚の条件は、ドイツ留学を許可とし、森林学の習得のため、4年の留学に向かいます。静六は、卒業し帰国後、日本で初めての西洋風公園である日比谷公園の設計に取り組み、以降、全国数百の公園設計に携わります。関東大震災後の復興計画にも関わります。儉約家としても知られ、多くの富を得ましたが、晩年はそのすべてを寄付、静岡県伊東市にて質素な暮らしをして過ごしました。

■ 高澤記念館に残る貴重な領収書を特別公開

埼玉県出身の学生たちが、学友会を結成し、学生のための寄宿舎と、奨学金制度の育英会を作ろうと運動を起こします。渋沢栄一は学友会の会頭に就任しますが、寄宿舎や育英会の創設には消極的でした。そこで立ち上がったのが本多静六、渋沢邸にて渋沢栄一の帰りを待ち、ようやく面会を許されます。

それでも、

「事を起こすには、主だってやる人が、まずお金を出すべきではないか。自分で出さずに人の所に来て勧めに来るのは、初めから間違っている」

と反対されてしまいます。

そこで、本多静六は、腹巻に入れていた300円（当時の年収の1/3）を叩き置きます。

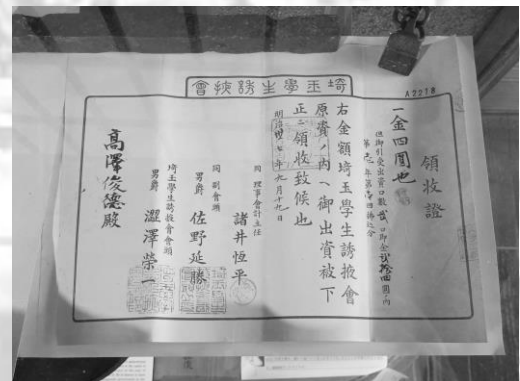
渋沢栄一は、その覚悟に負けて、寄宿舎建設と育英会の創設を約束します。

その後、渋沢栄一は、埼玉県にゆかりのある様々な人物に出資を求め奔走します。

高澤記念館には、長野村村長だった高澤俊徳に出資を求めた、その時の領収書を見る事ができます。本多静六、渋沢栄一、高澤俊徳が関わる貴重な品をぜひご覧下さい。



本多静六



埼玉学生誘掖会の領収書

■ あなたも“公園”を作ろう

本多静六は、公園制作にあたり、綿密に木々を植える場所等を設計した上で制作しました。皆さんも、頭の中にイメージした公園を図面におこし、実際に作ってみましょう。とっても楽しいですよ。作った箱庭はお持ち帰りができます。



箱庭制作サンプル

